

農繁期 レポート

令和7年 6月号

ニールファーム

オーナー	株式会社G-7新流
産地	三重県伊賀地区
水田面積	9.0アール
保証量	玄米252kg
形態品種	無農薬栽培コシヒカリ



生産者 (株)ツーライフ農園：北出 茂樹さん

オーナーの皆様、連日の高温注意報の中、いかがお過ごしでしょうか。東海4県の中でも伊賀地方は特に暑く、連日ニュースでも取り上げられています。そんな厳しい環境の中でも、苗は順調に育ち、現在は中干しの作業に入っています。まもなく、穂の赤ちゃんである「幼穂(ようすい)」が確認できる時期を迎えます。幼穂が確認されると、穂の発育を助ける「穂肥(ほごえ)」の散布という大切な作業が待っています。私の日課は、朝夕の草刈りです。暑さと戦いながらも、良い稲作りを目指して日々励んでおります。

6月の作業内容等

1. 分けつ

イネ科の植物に見られる現象で、一株から複数の茎が新たに生えてくる現象。過剰に進むと実のつく茎(有効分けつ)だけでなく、実のつかない茎(無効分けつ)が発生し、栄養が分散してしまう。



適度に分けつした状態

2. 中干し

稲の分けつが進んだ後、過剰に進む分けつを防ぐため、一時的に田んぼの水を抜きます。この作業は、実のつく茎に栄養を集中させる目的のほか、有害ガス(硫化水素・メタン)の発生を抑え、酸素を送り、根の活力を高めます。



小さなひびがあるぐらいが適切

3. 除草作業

水田周辺の草刈りも重要です。ヒエなどの雑草が繁茂する畦畔は、稲を食害するカメムシの発生源となるため、周辺の圃場にも迷惑をかけかねません。そのため、定期的に草刈りに勤しむ必要があります。



手押し式の刈払機

4. 害獣対策

農業において、害獣対策は重要です。令和5年の稲の全国での被害額は、イノシシが約17億円、シカが約11億円と、毎年深刻な被害があります。写真は、侵入防止用の電気柵です。電気柵は再利用できないので、毎年設置します。



侵入防止の電気柵設置作業